

令和8年秋季（9～10月）シラス漁況予報

水産技術センター
 令和8年9月11日

今後の見通しのポイント

秋シラス（9～10月）：好調であった前年並～上回る

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m層）

本年の大阪湾の水温は、平年並み～甚だ高めで推移しています（図1）。気象庁による9～11月の近畿地方における天候見通しでは、気温は平年より高くなる確率が50%、平年並となる確率が40%と予想されていることから、今後の水温は平年並～高めで推移すると考えられます。

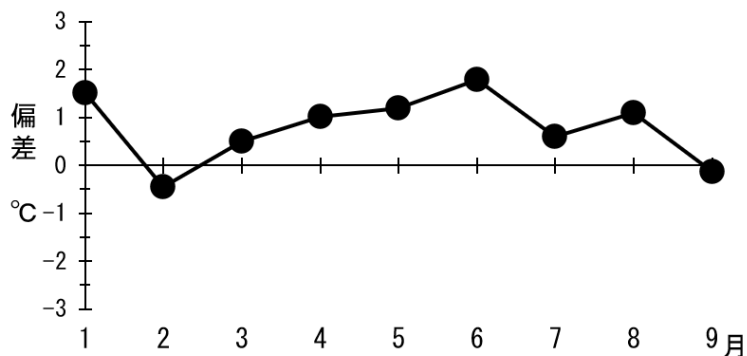


図1 大阪湾の水温平年偏差（10m層、大阪湾20定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、昨年10月以降、それまでの離岸傾向から接岸傾向に変化し、本年8月まで接岸傾向が続きました（表1）。

令和8年 秋用
 表1 潮岬沖黒潮の離岸距離

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2023年	171	190	188	126	195	191	171	145	145	100	119	104
2024年	93	115	136	121	99	95	85	96	133	109	119	136
2025年	160	189	118	108	73	41	49	54	30	20	20	23
2026年	19	20	19	20	25	29	28	20				

※網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

(2) これまでのカタクチシラスの漁況の推移

本年の大阪府におけるシラス漁は、4月20日から本格的に開始されました。黒潮は潮岬沖で接岸状態にあり、紀伊水道におけるシラス漁も好調で、外海から大阪湾へシラスの補給が期待できる状況の中で漁は盛んに行われました。さらに、5月初旬には湾内発生とみられる群の加入があり、8月下旬まで前年同時期を上回る漁獲が続きました。しかし、8月末以降に漁況が悪化し、現在まで低調な漁獲が続いています。なお、シラスの種組成は、5月末時点でカタクチシラスが95%以上を占め、6月以降はカタクチシラスのみとなりました。

(3) 8月、9月におけるカタクチイワシ卵、稚仔の出現状況

本年のカタクチイワシ卵は、8月は主に大阪湾東部海域で、9月は湾全域で採集され、8月はプランクトンネット1曳網当たり69粒、9月は87粒でした。これを平年、前年と比較しますと、8月は平年の177%、前年の44%、9月は平年の348%、前年の106%となりました。また、稚仔の採集数は、8月は平年並みで前年を大きく上回り、9月は平年および前年を大きく上回りました。(8月は平年の80%、前年の1333%、9月は平年の340%、前年の5666%)。

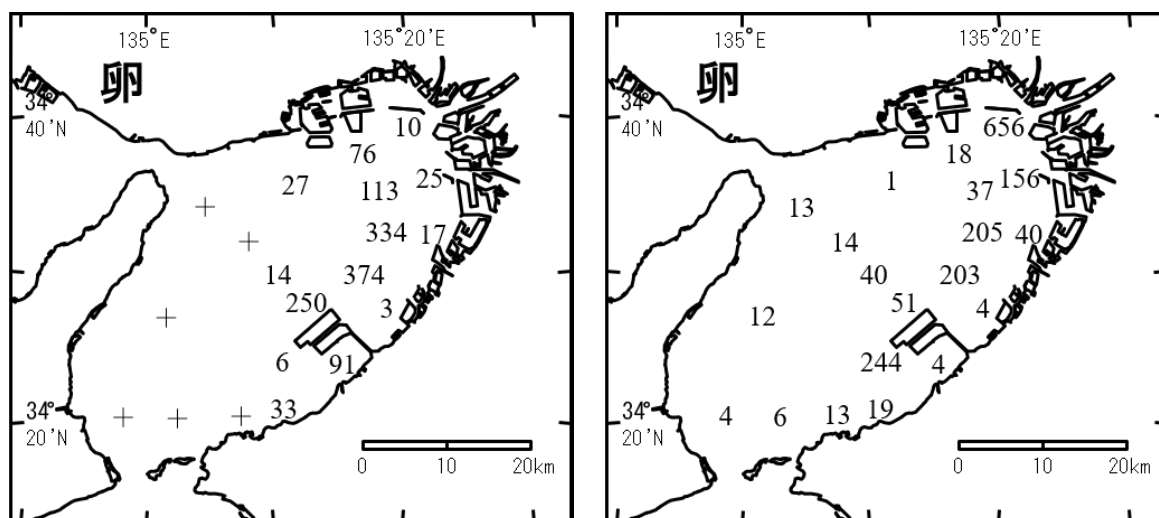
以上のことから、両月の採集数を総合すると、本年8～9月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生状況は、全体として前年を上回る水準であると推定されます（表2、表3、図2）。

表2 カタクチイワシ卵の採集数（本年は速報値）

[illegible]

表3 カタクチイワシ稚仔の採集数（本年は速報値）

[illegible]



2026 年 8 月
2026 年 9 月
図 2 カタクチイワシ卵の採集数（プランクトンネット 1 曳網あたり）
※ 図中+は出現なし

2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてからシラスとして漁獲され始めるまで約 3 週間、主漁獲対象になるまで 1 ヶ月弱かかります。そのため 8、9 月の卵稚仔の量と、この間の生き残りが秋シラスの漁獲量に大きく影響します。

本年 8、9 月の大阪湾におけるカタクチイワシの発生量は、卵および稚仔の採集状況から全体として前年を上回る水準であると推定されます。また、8、9 月の稚仔の採集状況から、生き残り条件については前年よりも良いと考えられます。

以上のことから、本年秋季（9～10 月）のシラス漁は、好調であった前年並～上回る漁となるでしょう。

近年は、晩秋季の 11 月以降もシラスが漁獲されるため、平成 21 年より秋季シラスを前半（9～10 月）と後半（11～12 月）に分けて予測しています。

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬ごろに発表するとともに、後半の秋季シラス漁況予測については、今後の卵の出現、親魚の状況、海況、他県の漁況等から 10 月下旬頃にあらかじめ発表する予定にしておりますので、参考にしてください。